

くらしの  
道具から  
読み解く  
造形の発想



Pictorial Book of  
Japanese Folk Art and Design  
Design Ideas from  
the Tools of Daily Life

前期  
2020  
10.24 mon.  
11.20 sun.

後期  
2020  
12.5 mon.  
12.24 sat.

武蔵野美術大学  
民俗資料室  
ギャラリー展示

会場  
武蔵野美術大学  
13号館2階  
民俗資料室ギャラリー/  
美術館 展示室1

30

# の デザイン

# 図鑑

時間 11時～19時  
(土・日曜日、祝日は10時～17時)  
※10月28日〔金〕は10時～17時  
休室日 水曜日 入場料 無料  
主催 武蔵野美術大学 美術館・図書館  
監修 加藤幸治 (武蔵野美術大学 教養文化・学芸員課程教授)  
協力 武蔵野美術大学 共同研究

「美術大学における民俗資料の活用をめぐる基礎的研究」  
\* 新型コロナウイルス感染症の状況により、会期・時間を変更、あるいは予約制を導入する場合があります。  
\* 来館に際しては、最新情報を公式ウェブサイト (<https://maum.musabi.ac.jp/folkart/>) で確認ください。  
\* 前期・後期で展示資料の一部入れ替えがあります。

武蔵野美術大学 美術館・図書館 民俗資料室 〒187-8505 東京都小平市小川町1-736 電話 042-342-6006

武蔵野美術大学 美術館・図書館では、民俗資料室ギャラリー展示30「民具のデザイン図鑑」を開催します。本展は、当館所蔵の民俗資料コレクションによって編集した書籍『民具のデザイン図鑑』(誠文堂新光社、2022年10月発売予定)をもとにした展覧会です。民具は、特定の設計者が考案するのではなく、人々の暮らしの現場において理にかなった造形として生み出されます。そして生活が変化するのにもとない、その造形も常に変化してきました。そうした民具に対して、次の三つの視点を設定します。

① 日常的な労働や身の丈にあった生活に即した造形(かたちと身体性)  
 ② デフォルメされた造形が意味を生み出し、共有する造形(ユーモアと図案)  
 ③ 自然に宿る精霊や神仏を表現し、その霊性を暗示する造形(見立てと表象)

# デザイン

# 図鑑

民具は、現代から見れば過去の庶民生活を知ることができる民俗資料ですが、上記の見方でその造形を考えることで、わたしたちの生活や自然観、世界観と地続きなものとして再考することができます。本展では、民具が持つ豊かな造形の発想に新たな価値を見だし、ユーモアと見立ての造形にまなぶことで、美術大学における民俗資料の可能性を考える機会としたいと思います。

# 民具

## の

## 1



三つ手籠

かたちと身体性

バラモン風 長崎県

## 2



ユーモアと図案

菓子木型(鯛) 千葉県



箕



福箕 東京都

## 3

見立てと表象



手炙り「タルマヒバチ」(達磨火鉢) 山口県

黒川弘毅一彫刻/触覚の理路  
 2022年10月24日(日)→11月20日(日)  
 AGAIN-ST ルーツ/ツール 彫刻の虚材と教材  
 2022年10月24日(日)→11月20日(日)、12月5日(日)→12月24日(日)  
 助教・助手展2022 武蔵野美術大学助教・助手研究発表  
 2022年12月5日(日)→12月24日(日)

武蔵野美術大学 美術館・図書館 民俗資料室  
 〒187-8505 東京都小平市小川町1-736  
<http://mauml.musabi.ac.jp/folkart> Twitter: @mau\_m\_

